

2026年3月15日

公益社団法人日本語教育学会

2025年度日本語教育学会秋季大会
大会若手優秀発表賞 選考結果報告

1. 選考対象者数^{※1}

29名

2. 授賞者

(1) 口頭発表

ア. 受賞者：松井佑樹氏（早稲田大学大学院生）

イ. 発表題目：AIを用いた語彙のダイナミック・アセスメントの効果
—診断的語彙テストを通じた語彙の定着—

(2) ポスター発表

ア. 受賞者：Hoang Ngoc Bich Tran氏（岡山大学大学院生）

イ. 発表題目：うつ病を経験した技能実習生と日本語学習の意味
—ウェルビーイングの視点から—

※1 大会での筆頭発表者のうち、大会若手優秀発表賞表彰規程で定める「若手」に当たる者（有効期限付き学生証の写しを本会事務局に提出した者）を選考対象といたしました。

<連絡先> 公益社団法人日本語教育学会（大会担当）
〒101-0065 東京都千代田区西神田 2-4-1 東方学会 2F
Email: taikai-office(アットマーク)nkg.or.jp

2025年度秋季大会 大会若手優秀発表賞授賞者

大会若手優秀発表賞は、春季・秋季の各大会において発表された口頭発表・ポスター発表の発表者のうち、特に優れていると認められた若手の筆頭発表者を表彰するものです。

1. 口頭発表

(1) 授賞対象者

松井佑樹氏(早稲田大学大学院生)

(2) 発表題目

AI を用いた語彙のダイナミック・アセスメントの効果
—診断的語彙テストを通じた語彙の定着—

(3) 授賞理由

本研究は、生成 AI と自作チャットボットを活用したダイナミック・アセスメント (CA-DA) を日本語語彙学習に導入し、評価と学習を同時に成立させる新たな語彙テストの可能性を実証的に示した研究である。日本語教育分野ではまだ十分に検討されていなかった自由記述式・多言語対応の動的語彙テストを、生成 AI によって実用的な形で実現した点は、理論的にも実践的にも高く評価でき、将来性が期待できる。

発表では、研究背景から調査設計、分析手法まで体系的に整理され、介入群と統制群の比較に基づく実証的データから、CA-DA が語彙の定着に有効であること、ならびに従来の静的テストでは捉えにくい学習者の潜在的な語彙知識や学習可能性を「動的スコア」によって可視化できることが明確に示されていた。また、質疑応答においても、理論的背景と実証結果を踏まえた的確な説明と応答がなされ、聴衆に多くの知見と示唆を与える内容であった。以上の理由から、本発表を大会若手優秀発表賞にふさわしいものと判断した。

2. ポスター発表

(1) 授賞対象者

Hoang Ngoc Bich Tran 氏(岡山大学大学院生)

(2) 発表題目

うつ病を経験した技能実習生と日本語学習の意味
—ウェルビーイングの視点から—

(3) 授賞理由

本研究は、ベトナム人の元技能実習生が、精神的苦痛を抱えながらも日本語学習を継続した理由と、ウェルビーイング（精神的・身体的・社会的に満たされた「善く生きる」状態）の回復・向上との関係を分析した研究である。分析を通じて、元技能実習生の S さんの日本語学習の意味づけが「社会や制度への要請に応じる手段」から「自分を取り戻し、社会で意味のある存在として生きるため」へと

変容した過程を示した。また、社会で未来を志向した日本語学習が行われたとしても、構造的要因によりウェルビーイングの達成が阻害される可能性を指摘している。

1名の技能実習生による語りをデータとして、日本語学習の意味づけを丁寧に追っていく姿勢や、研究テーマの新規性・社会的重要性が評価された。また、発表において、聴衆の理解を意識した説明や進行がなされていた点も、高評価を得た。これらの理由から本発表を大会若手発表賞にふさわしいものと判断した。

以上